

平成14年度 和歌山県文化奨励賞

くすもと こうじ
楠 本 弘 児

住 所：和歌山県新宮市

出 身 地：和歌山県新宮市

生 年：昭和22年

◎業績及び経歴

昭和22年新宮市に生まれた氏は、昭和37年新宮市立緑丘中学校卒業後、家業の農業に従事する傍らアマチュアカメラマンとして活動し、昭和51・57年の2度にわたる富士フォトコンテスト金賞入賞をはじめ昭和40年代～50年代にかけて各種コンテストで百数十回の高位入賞を果たす。

昭和50年代末頃からは熊野各地の撮影に取り組み、那智勝浦町妙法山からの富士山最遠望写真の撮影や串本町潮岬の日の出～日の入連続写真、シイノトモシビダケ(光るキノコ)の写真、那智原生林における巨樹ホルトノキの写真など熊野のユニークな写真撮影で知られることとなる。

平成5年にはプロカメラマンとして独立。以降、新聞社報道写真部門で全国年間賞を平成9・12・13年の3回受賞している。また、主な写真展としては平成11年の東京渋谷ドイフォトギャラリーや大阪朝日新聞アサコムホールで開催した「神秘的国 熊野」写真展がある。

また、氏の写真はアメリカの「National Geographic」やフランスの「GEO」などの地理学雑誌にも掲載されている。

多少の困難は厭わず険阻な山奥まで分け入って森、滝、谷、川、樹木など熊野本来の自然の姿、あるいは神社、古道、野仏、修験道や祭礼、作業労働など熊野の生活、文化、宗教等の営みがあるがままに写し取り、写真展や写真集、また全国有名各誌やテレビを通じて熊野の特色を国内外に広く伝えてきた氏の功績は多大である。

■現在

日本風景写真協会和歌山県支部長

■主な表彰歴

昭和51・52年 富士フォトコンテスト金賞